

防 空 壕

西 羽 晃

太平洋戦争も末期になると、日本の本土がアメリカ軍機から直接に攻撃されるようになった。それに備えて、家庭でも防空壕を造るように政府から指導された。多くの家庭では自宅の庭を掘り、上に簡単な屋根を載せる程度であった。戦後は不要となったので、殆んどが壊された。諸戸家の防空壕は流石に頑丈に造られており、今も東諸戸（六華苑）、西諸戸、諸戸徳成邸に残っている。今春に行われた諸戸徳成邸最後の特別公開で、初めて防空壕も公開された。

核攻撃にも耐えられそうなシェルターである。内部の照明がないので、公開時にはランタンを置いて足元を照らした。



諸戸徳成邸の防空壕



深谷の防空壕

公開後の反省会の席上、深谷に防空が残っている話が出た。早速に持主に連絡をしてもらい、見に行くことにした。行ってみると足元に大きな木が倒れて、近づくこともできない。その後に持主の方が木を片付けられたが、内部は泥が堆積しているので、7月12日に有志で泥の撤去を行った。内部は半分ほどは泥に埋まっていて、泥水が溜まっている。排水を試み、泥を取り除いたが、暑さで作業は進まず、3分の1ほどを残して作業は中止した。

この防空壕は飛鳥寺の丘の中腹に横穴を掘ったもので、当時四日市商業学校の生徒だった内山八寿雄さん（89）が手掘りで掘ったもので、堅い岩盤で苦勞されたそうである。八寿雄さんのお父さんは大工さんであり、入口のレンガ積みをされたそうである。八寿雄さんは深谷で内山ラジオ店を営まれ、今は息子さん、お孫さんが継いでおられる。

深谷ではあちこちに防空壕があって、「マンボ」と称して、今もミカンの貯蔵庫をして利用されているとか。いずれ調査してみたいと思う。8月になると、戦争のことが思い出される。戦争は兵士だけが競技場で戦う競技ではない。すべての人の生命・財産を奪ってしまう。再び戦争を起こしてはならない。